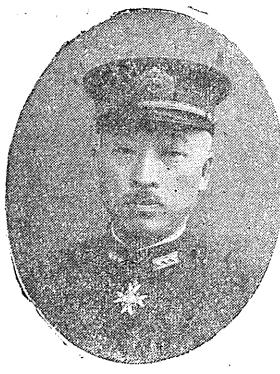


最戦は敗勝の後、洋平太に佐大軍海貞く驅を戦作



記者 先づ最初に大東亜戦争の大勢

特に太平洋作戦の現段階について

伺ひ度いと思ひます。

友貞大佐 始めのうち、大東亜戦争

勃發初頭からガダルカナル島の轉

進までの間、米英が敗戦に敗戦を

重ねて來た原因は、日本と米英の

両方の心構へといふ點において、

日本が突然勝ててゐたからであります。

即ち換言すれば、米英は日本に對して油斷をしてゐたのであ

つて、日本の傳統である立上りに

機先を制したのが、米英の敗けた

最大の原因であつたのです。その

後彼等は日本に對する考へ方を一

變し、我々は日本の家が、木造だ

からすぐ焼けてしまふと思つてゐ

るが、それは日本人の鐵のやうな

心をもつて、完全に防護されてゐ

ると日本の心構へを見なほし、挽

回策として、政治的にも戦略的に

も非常な緊張をもつて、準備しき

たつたのであります。所が日本

は、緒戦以來あまり順調にゆくの

で、この分なら先は大したことは

ないだらうとの安易感

に捕はれた傾がありま

した。フリッピンで

少し抵抗はあつたが、

印度洋上の海戦でもジ

ヤバ沖、珊瑚海々戦で

も、事實日本軍は破竹

の勢ひであつた。實力の差は本當に赤子の手をねぢるやうに開きがありました。全くこちらの作戦通りにいつたのです。そこで今後もこの調子で行けるものと考へたものもあり、又一般もその考へで、今後は文化工作をやらう、大いに資材の獲得をしやうと、少し方向がそれた感があつた。

ジャバ沖海戦以後は殆んどさういふ情態でした。そこで兩方の心構へが、開戦當時とは反対の立場となつたので、ガダルカナル島の南方に伸びるべき前進が一時足踏みをしました。その時に米國は反抗進撃の態勢を整へて大決心をしてやつて來たのであります。つまりこの心構への差がガダルカナルに現はれたのであります。爾來半歳に亘る決戦死

闘は、ガ島の形相を一變するまでに續行せられましたが、遂に轉進することになりました。一方歐洲戦線では、樞軸國が北アフリカから撤退して、反樞軸國が勢力を得て來たの

で、アリューシヤンのアツツ進攻を決行することになったのではないかと思はれる。

もとより米國の日本進攻の攻路には三つあつて、既に中央の攻路は破れ、北方はアリューシヤンで断たれた。南方

もからうじて餘命を保つ状態であつたので、米國は航空母艦、その他空襲の基礎となるものの性能を變へて、日本本

土空襲をしようと考え、唯一の日本空襲の道だけは確保しておかうとしたのであります。そこでこゝを先途とが島の方を攻撃しました。しかし轉進は、必ずしも敗退を意味するのではないので、かつて旅順を陥す時にも攻撃方向を變へて進撃してゐますし、獨ソ戦線に於ては、始終かういふ事はやつてゐるのです。今度のも敗北の意味はないの

で、これまで、敵味方が一島に難然としてゐたので攻撃も餘程用心しなくてはならなかつたが、轉進の結果、何處へ行つても敵ばかりといふことは、かへつて戦争を容易にしてゐるのです。今迄の様に森林地帯である上に、敵味方が入り交つてゐるのでは、爆撃もし難いが、この頃では徹底した爆撃ができるので、轉進以來盛んなる敵地の爆撃を行ふ事はやつてゐるのです。

印度洋上の海戦でもジヤバ沖、珊瑚海々戦で最も、事實日本軍は破竹

記者 作戦上の行動であつたことは、いふまでもないと思ひますが、現段階は氣持の上から相當敵に對する影響があつたと思ひますが。

友貞大佐 勿論敵もガ島の占領、山本司令官の戦死、アツツ島の玉碎で氣勢は相當なものと思ひます。

記者 最近、航空機に重點を置くやうにいはれ、航空母艦の擴充など叫ばれ、航空機が最後の勝敗を決するやうに思はれます。しかし、航空機が最後の勝敗を決するやうに思はれますが、航空作戦と艦隊作戦の關係をいつたものはどうなつてゐますか。最後はやはり戦艦を中心とした艦隊が出て、勝負を決するものでせうか、それとも航空戦力で勝敗が決するものでせうか。

友貞大佐 航空機なるものは、今時の海戦において戦勝の端緒を開くものであることは常識であるが、大艦航空戦と艦隊戦を二つに分けて考へるのは、間違ひである。飛行機はあたかも弾丸の役目をするもので、之を撃ちだすものが母艦であり、之を持ち運ぶのが艦隊であります。だから航空母艦は砲身であり、砲身を運ぶのは艦隊であるともいへる

のであります。航空戦隊は孤立するものではないのであります。例へば腕が強いから身體が強健だとはいへない様に、これを有効に使ふのは、その人の頭にあるのでして、

艦隊作戦と航空作戦とは分けられないものです。潜水艦の發達は、戦艦にとつて替わるだらう、といふやうなこと

が、日露戦争後には盛んに出てゐましたが、事實はさう

であります。艦隊の攻撃の武器が變つただけであります

友貞大佐 戰ふやり方、方法では變るが、原理は變らないのです。重慶が爆撃に依る瓦の片で、河原のやうになつてゐるが、日露戦争後には盛んに出てゐましたが、事實はさう

であります。それを同じやうに、海上作戦でも

最後はどうしても軍艦が出なければいけないので、飛行機は推進力を與へるだけであります。ガダルカナルでも制空